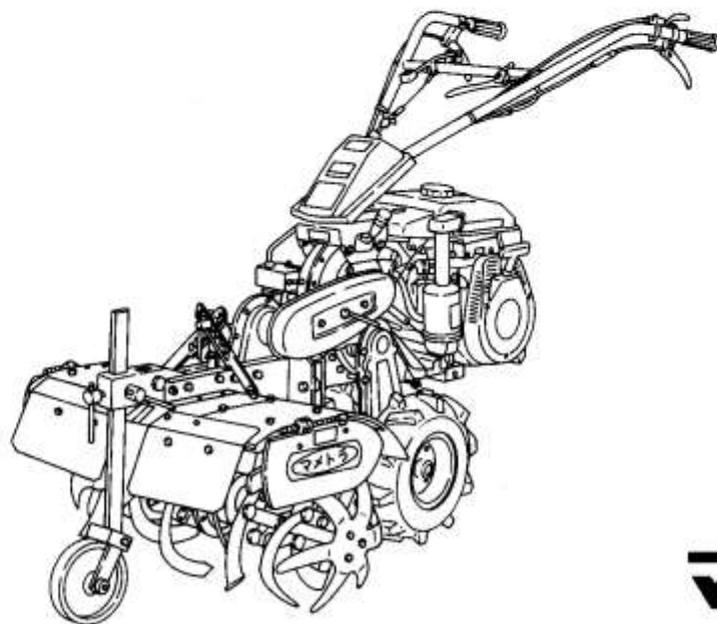

マメトラ 管理機

MC-A11C ★取扱説明書★



マメトラ農機株式会社

はじめに

このたびはマメトラ^{ワン}・^{ツー}TOWカルチ MC-AⅡC型をお買い上げ戴き厚くお礼申し上げます。

本機は高性能エンジンを搭載し、「やはり小型でなければ」と小型のもつ軽快性、経済性をもちハウス、畑地等狭い畝間での中耕、培土作業及び牽引作業もできる様に開発されたもので『必要にして充分な機構』をコンパクトにまとめた管理機です。

この優れたMC-AⅡC型の特性を十分に発揮して戴くためにご使用前に必ずこの取扱説明書を良くお読み戴き、日頃の適切な点検整備を行い快適な作業を行う様をお願いします。

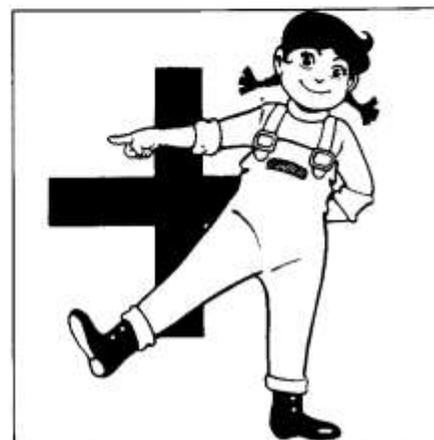
*改良に伴い、以後予告なく使用変更及び現物の形状が異なる事がありますので予めご了承ください。

もくじ MC-AⅡC

1	安全作業のための心得	1
2	特長	3
3	仕様	4
4	各部の名称	5
5	運転前の注意	6
6	始動発進・停止のしかた	7
7	潤滑油	9
8	本機各部の構造と調整	11
9	作業機の脱着	15
10	不具合と対策方法	17
11	手入と保存方法	19
12	付属品一覧表	20

1. 安全作業のための心得

- (1) 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で、正常な運転操作ができないと思われる場合は機械作業に従事しないでください。
- (2) 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や頭髪・手拭等が巻き込まれないようにしてください。
- (3) 作業前には常に正常な機能が発揮できるように各部の点検整備に心掛けてください。また、作業後にも、次の作業のために点検整備を実施してください。
- (4) 機械の点検調整や草の巻付の除去する作業等は、必ずエンジンを止めてから行なってください。
- (5) 作業機の着脱はできるだけ平坦な場所で行なってください。
- (6) エンジンを始動させる場合は必ずクラッチを切り、チェンジレバーを中立にしてから行なってください。
- (7) 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、火気は厳禁のこと。特にくわエタバコでの給油は絶対にやめてください。
- (8) 作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないでください。特に子供には注意が必要です。
- (9) 作業中は機械の周囲に注意し、安全を確認してください。特にバック作業時には足元の注意が必要です。また、バック発進時にはハンドルが取られやすいので静かに発進してください。



- (10) ハウス内の作業や屋内での点検整備では排気ガスがたまり易いので換気には十分な配慮が必要です。
- (11) エンジンのマフラーは非常に高温になりますので絶対に触れないでください。また、機械におおいをかける場合はマフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なってください。
- (12) 定置作業の場合等にベルトカバーをはずして作業機をセットする時は周囲に柵等を設け、手等がまちがって触れる恐れがないようにしてください。
- (13) 移動発進する時は、必ず作業機の回転は止めて行ってください。
- (14) 傾斜地、畦畔の横断、軟弱地の通過及び旋回時には転倒に十分注意してください。

2. 特 長

(1) 安定した作業

駆動輪が2輪の為、安定した作業が楽に出来ます。又、駆動輪は車軸交換により1輪に簡単に変わりますので作業範囲が広がります。

(2) 快適なエンジン

自動減圧装置付きのO. H. V (オーバーヘッドバルブ) 4サイクルエンジンを搭載していますから女性の方でも楽々始動できます。又、エアクリナーはオイルバス式で吸気口を高い位置に設け方向自在になっています。

(3) 豊富な作業速度

走行は前進2段、後進1段、ロータリーはレバー操作で正転、逆転が作業内容に合わせて選べます。

(4) 豊富な作業機

ロータリーは、ワンタッチで脱着できる様ヒッチ方式を採用し中耕から培土、満上げ等豊富な作業が可能です。

(5) 狭くて丈夫なミッション

畝間作業が出来る様、ミッション巾を可能なかぎり狭くしてあります。又、石等に当たっても丈夫な鉄板製です。

(6) 自由なハンドル

作業者に合わせて、ハンドル上下(3段階)はもちろんハンドル回動(220°)も可能です。

(7) 本格的なナタ爪ローター

耕巾は300~600mmと広くも狭くも調節できます。

(8) 完璧な安全設計

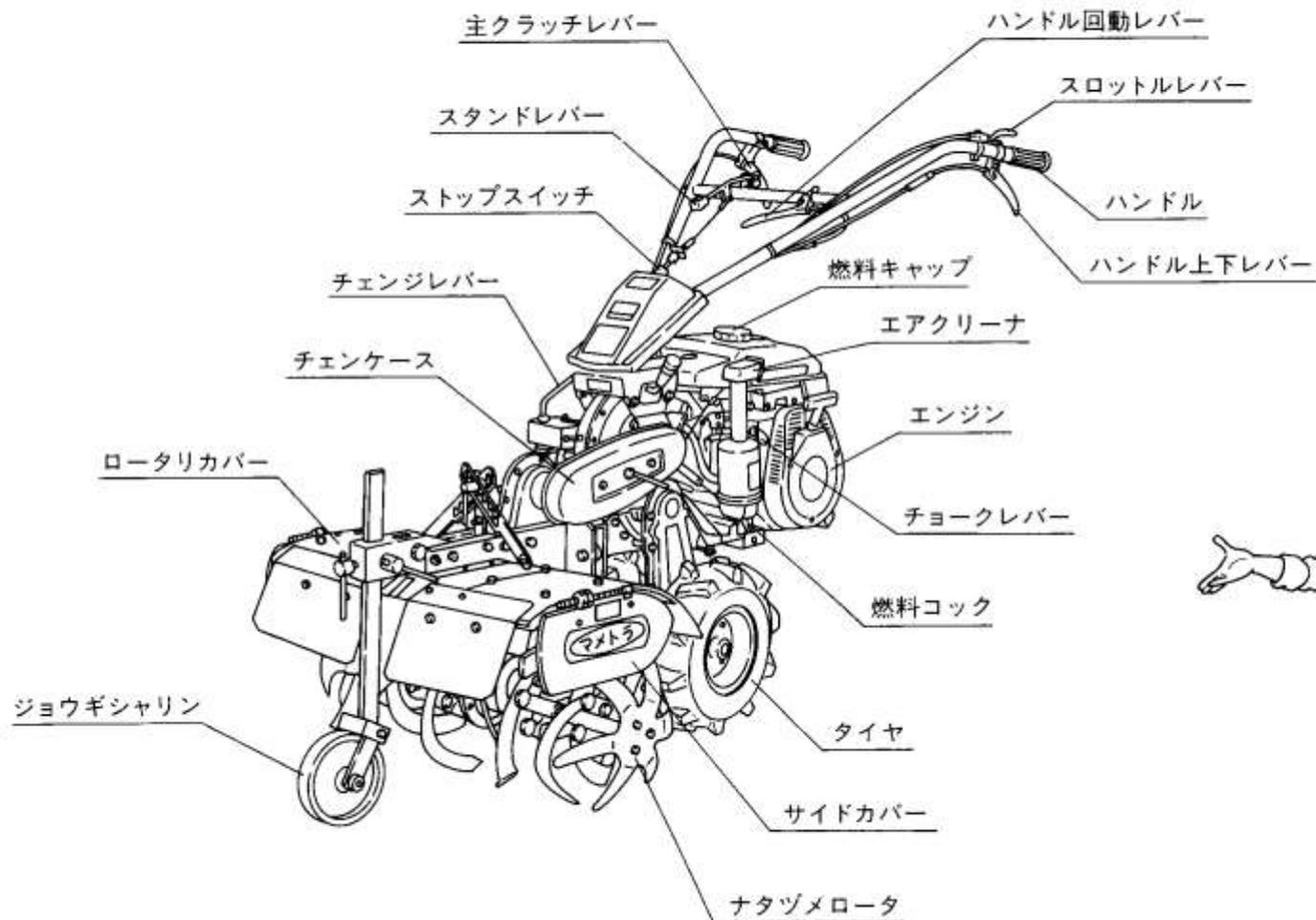
エンジンからの伝導ベルトはもちろん、動力取出軸もカバーされ、安心して使用出来るよう考慮してあります。

3. 仕 様

項 目		仕 様	
全 体	型 式	マメトラMC-AⅡC	
	全 長	1440mm	
	全 幅	800mm	
	全 高	960mm	
	重 量	88kg (ミッションオイルを含む)	
走 行 部	変 速	1 速	1.63km/h
		2 速	3.44km/h
		R 速	1.47km/h
	主クラッチ	ベルトテンション方式	
	車 軸 径	φ20	
	タイヤ(径)	3.50-5 (φ308)	
	潤 滑 油	ギヤオイル #50~#90	
	潤 滑 油 量	1ℓ	
ハ ン ド ル 部	形 状	ツノハンドル	
	上 下 調 節	ワンタッチ式 (3段)	
	左 右 調 節	ワンタッチ式 (220°)	

項 目		仕 様	
ロ ー タ リ 部	変 速	低 速	200 r. p. m
		高 速	400 r. p. m
	ローター軸径	六角軸 (対辺18mm)	
	最大ローター径	φ320 (標準φ310)	
	作 業 幅	300~600mm	
	ロータリーカバー	開閉式	
	サイドカバー	ワンタッチ開閉式	
P T O 部	軸 径	インポリュートスプライン φ17×Z15×M1.0	
	回 転 数	400 r. p. m	
エ ン ジ ン 部	型 式	GM130LN-350(自動減圧装置付)	
	最 大 出 力	4.0ps/2000 r. p. m	
	排 気 量	126 cc	
	使 用 燃 料	自動車用ガソリン	
	燃料タンク容量	3.3ℓ	
	点 火 プ ラ グ	NGK BP5ES	
潤 滑 油 量	0.6ℓ (SAE #20~#30)		

4. 各部の名称



5. 運転前の注意

機械の性能を快適に保つためには日頃の点検、整備、調整が機械の寿命に大きく影響します。

次の点に御注意ください。

1. 各部のボルト、ナット類のゆるみ、脱落の有無を点検してください。
なお10～20時間使用後に各部の増し締めを行ってください。
2. 各注油箇所に指定の潤滑油が適正量入っているか点検してください。
輸送中の油洩れ防止のため油が入っていない場合があります。
3. クラッチレバー、スロットルレバー等が正しく作動するかを確かめてから運転を始めてください。
4. Vベルトは運転初期に多少伸びます。そのままですとスリップしますから2～3時間運転後に張り直してください。
5. 新しい機械は最初2～3時間は無理な運転を避けてナラシ運転をしてください。
6. 運転時に異常音または異常な発熱はないか点検してください。



6. 始動発進・停止のしかた

(1) 始動のしかた

- ①主クラッチレバーを「切」位置にします。(1図)
- ②燃料コックを「開」位置にします。(2図)
- ③チョークレバーを「閉」位置にします。(2図)
※エンジンが暖まっている場合は「開」位置で始動します。
- ④スロットルレバーを「始」位置にします。(3図)
- ⑤リコイルスタータを勢いよく引張り、エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に「全開」位置にします。

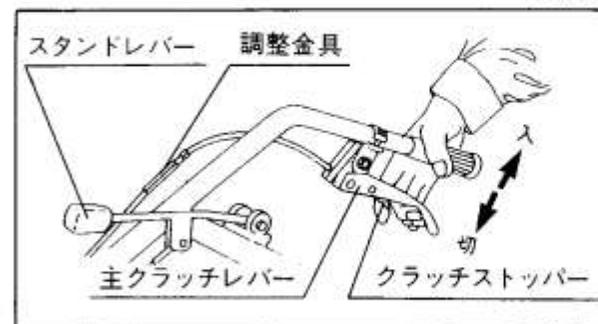
(2図)

〔注意〕

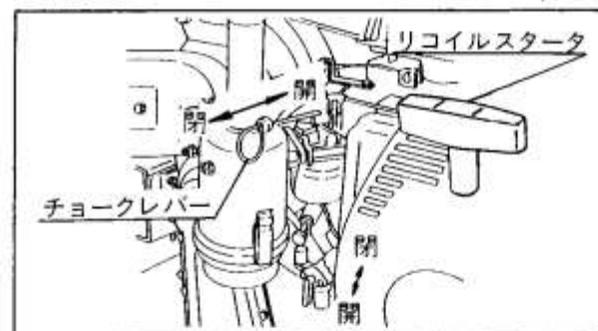
リコイルスタータを3回以上引張っても始動しないとき、そのまま何回も引張っていると、燃料の吸いすぎとなり始動困難になりますので、チョークレバーを「開」位置にしてからリコイルスタータを引張ってください。

※エンジン始動後約5分間は、負荷をかけずにエンジンをかけたままにしておいてください。(エンジンの暖機運転)

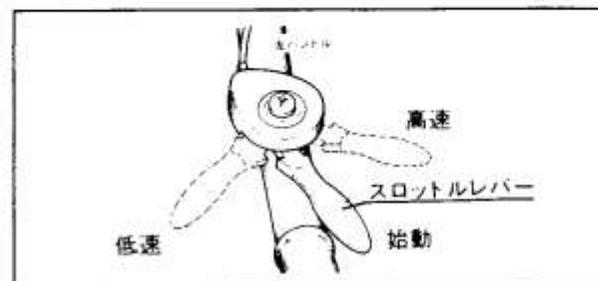
(1図)



(2図)



(3図)



(2) 発進のしかた

- ①スロットルレバーをゆっくり「高速」位置にします。(4図)
 - ②主クラッチレバーをゆっくり握ります。レバーが上った状態でクラッチが入ります。(5図)
- 発進するときは、周囲の安全を確かめて、発進してください。

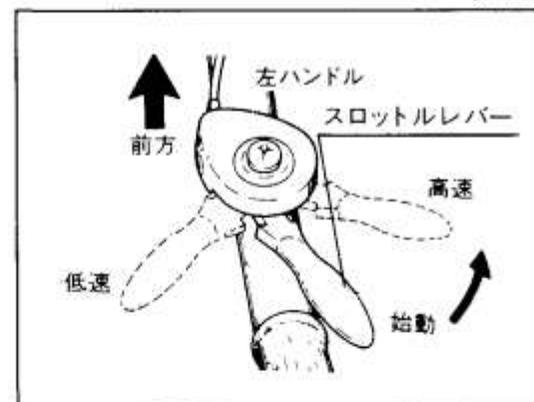
(3) 停止のしかた

- ①主クラッチレバーを「切」位置にして停止します。(5図)
- ②スロットルレバーを「低速」位置に戻します。(4図)
- ③ストップスイッチを押してエンジンを停止します。(6図)

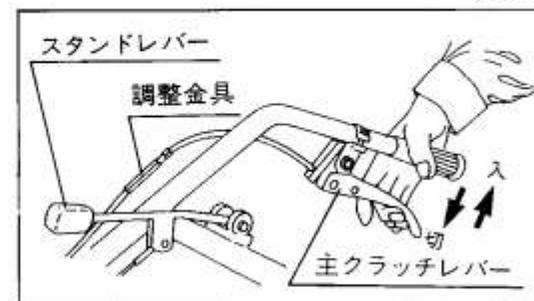
(4) 燃料コックを閉じます

燃料コックを閉じずに前倒しにするとキャブレターがオーバーフローをし、ガソリンがエアクリーナーやクランク室内に入り込む場合がありますので必ず燃料コックを閉じてください。(2図)

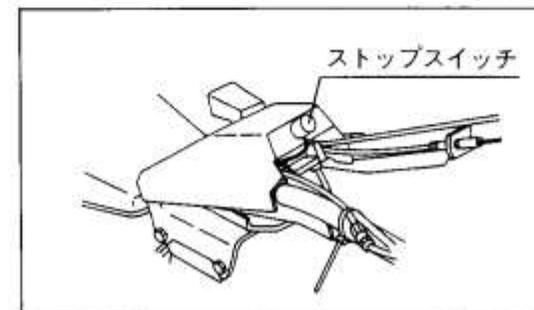
(4図)



(5図)



(6図)



7. 潤滑油

(1) エンジン

1) エンジンオイル

エンジンオイルは入っておりません。使用前に必ずエンジンオイルを正規量入れてください。使用オイルはSC級 SD級 SE級の良質の新しいオイルを使用してください。(7図)

夏期……SAE-30 SAE10W-30 SAE10W-40

冬期……SAE-20 SAE10W-30

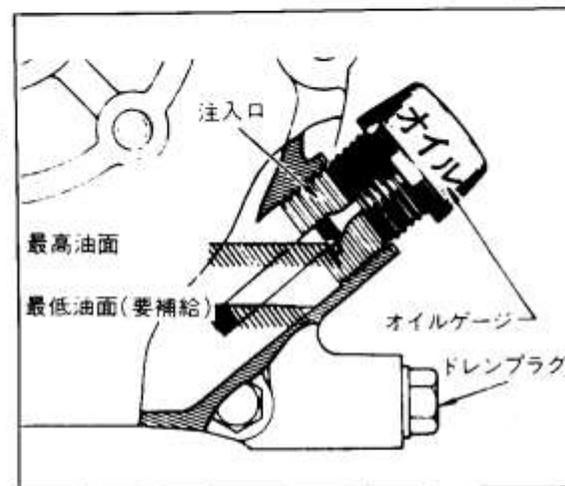
2) エンジンオイルの交換

エンジクラク室	1回目交換	2回目の交換
オイル交換時間	20時間後	50時間ごと

エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますので早めに新しいオイルと交換してください。エンジンが暖まっている間にドレンプラグを外して古いオイルを抜きますと簡単に出来ます。

GM130LN-350形潤滑油量0.6ℓ

(7図)



(2) ミッションケース

SAE90番の良質ギヤオイルを使用してください。

注油は注油口から規定量(1ℓ)入れてください。(8図)

油を抜く時はミッションケースの下部についている排油口より抜いてください。

(注意)

ミッションケースのオイルは最初の10~20時間使用したら一度交換してください。

最初は初期摩耗がありますので早めに御願います。またその後は年1回か2

回交換してください。長く使うと老化して油としての用をなくします。

工場出荷時にはミッションオイルは注油してあります。

運転前には必ず点検してください。

(3) 車軸ケース

車軸ケースの潤滑は良質グリスを組立時塗布していますが20時間毎にシールキャップをはずし、良質グリスを塗布してください。(9図)

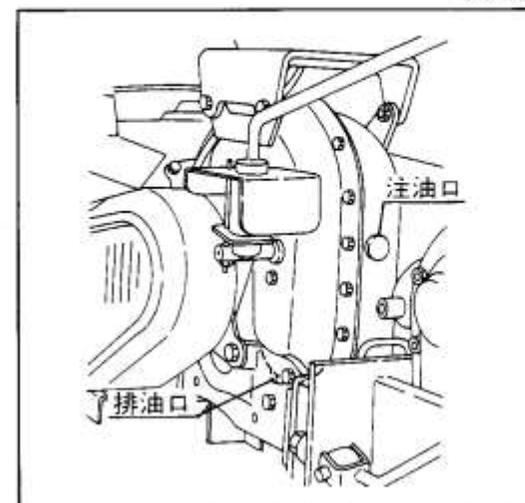
(4) 各摺動部

各摺動部にはギヤオイル、またはエンジンオイルを適宜滴下してください。

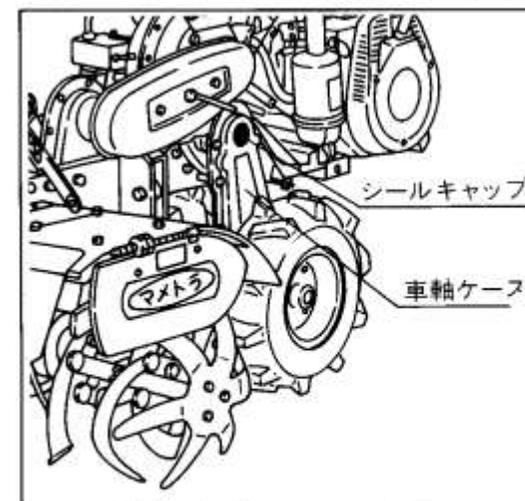
また車軸、耕耘軸には必ず油をつけてホイルチューブを取り付けてください。

クラッチワイヤにも時々注油してください。

(8図)



(9図)



8. 本機各部の構造と調整

(1) クラッチレバーの操作

1) クラッチを入れるには、ハンドル右側部のレバーを握ります。

右手3本の指でレバーを握ると、クラッチストッパーがカチリと入りクラッチがロックされます。(10図)

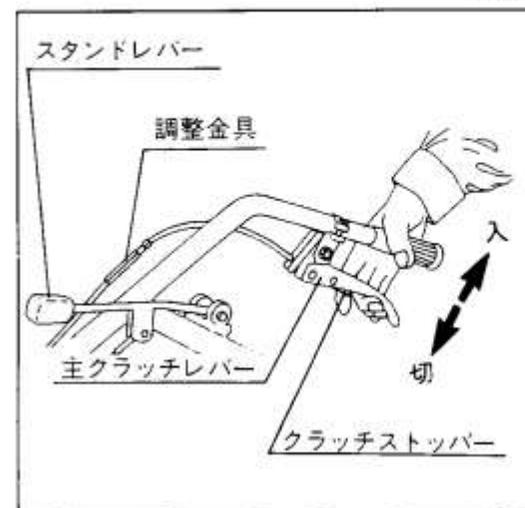
2) クラッチを切る場合はクラッチレバーとクラッチストッパーの両方を一緒に握り同時に放します。

クラッチはベルトの緊張によって行われますのでこの調整をする場合は、クラッチワイヤーの調整金具のロックナットを緩め適正なベルトの張りが得られるまで調整してください。

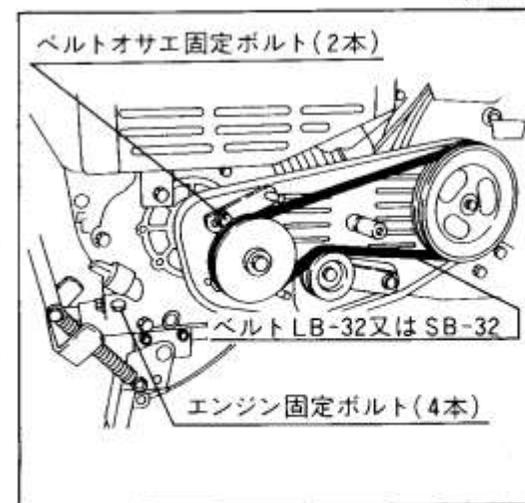
調整金具で出来ない場合は、エンジン固定の4本のボルトとベルトオサエ固定の2本のボルトを緩めエンジンを移動してください。又、ベルトオサエの調整はクラッチを切った時、ベルトを軽く押え、ベルトがVプーリーの溝から必ず浮き上がる様に調整し、ベルトを張った時ベルトオサエとベルトの間隔は3～4mmあるのが適正です。(11図)

使用ベルトサイズ LB-32又はSB-32

(10図)



(11図)



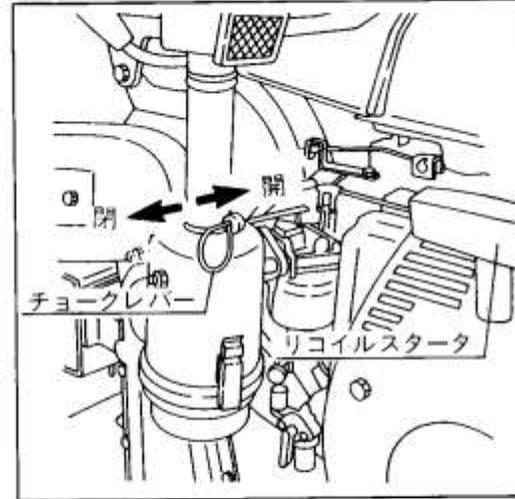
(12図)

(2) チョークレバーの操作

チョークレバーの操作は寒い時は「閉」にしてください。始動後は徐々に「開」にしてください。一度暖ったエンジンを再始動する場合は、チョークレバーを「開」又は「半開」にしてください。

チョークレバーを「閉」にしてリコイルスタータを勢いよく3回位引張っても始動しない場合は必ずチョークレバーを「開」にしてやりなおしてください。

もし、チョークレバーを「閉」のまま何回もリコイルを引張りますと燃料の吸い過ぎとなり、点火プラグも濡れて始動不良となります。(12図)



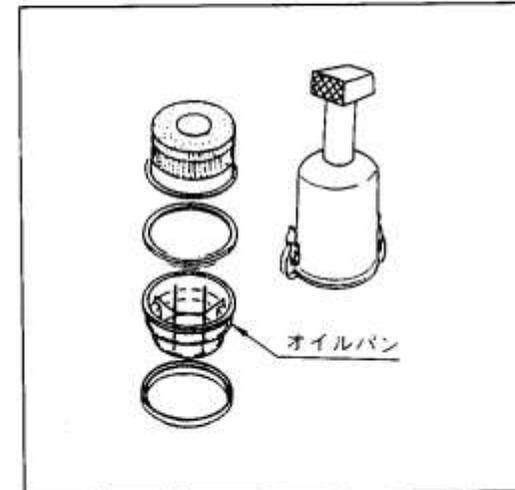
(13図)

(3) 暖機運転

エンジンが始動したら、3分間位負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部へ十分にゆきわたらせるのと同時に作業をさせても大丈夫な状態にする為です。

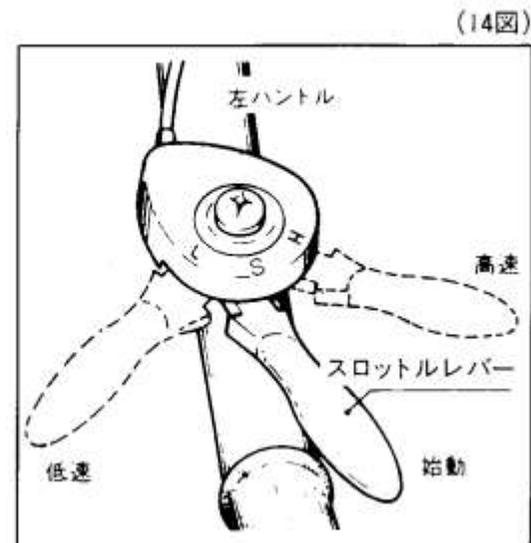
(4) エアークリーナーの掃除 (13図)

オイルパンにオイルレベルまで、エンジンオイルを入れます。
エンジンオイルがよごれたら交換してください。



5 スロットルレバー

ハンドル左側握部に付いています。(14図) レバーを内側方向に廻すとエンジンの回転が上り、馬力が出ます。外側に戻しますと回転は下ります。又、始動時にはレバーをSの位置にしてスタートしてください。



6) 変速機構

チェンジレバーの操作は必ずクラッチを切ってから行なってください。

1) 走行チェンジレバー (15図)

作業に合せレバーを切替えて使用します。

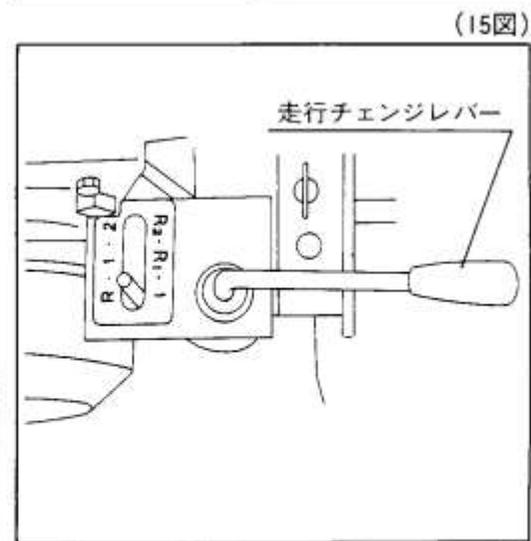
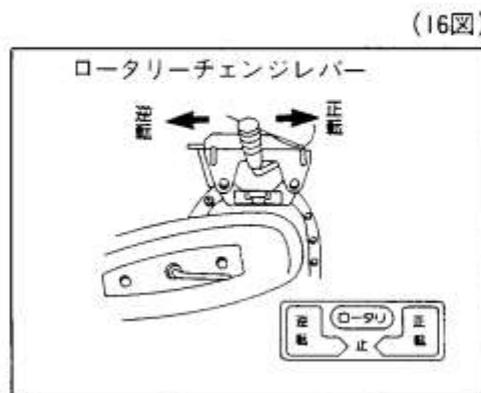
2) ロータリチェンジレバー (16図)

機体が前進する時、車輪と同一の回転方向が正転です。

正転での作業……中耕・培土

逆転での作業……溝掘・ネギ土入れ

3) ハンドル回転時はチェンジレバーを上方に引上げて位置を変えてください。



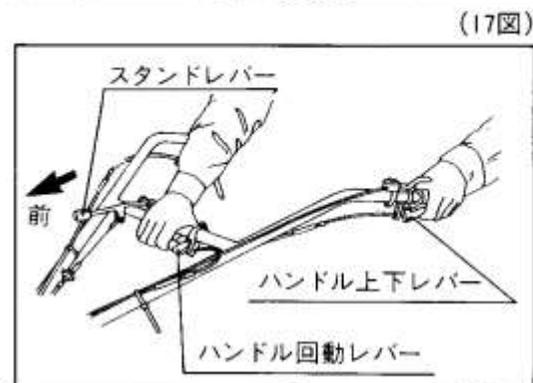
(7) ハンドル

1) 上下について (17図)

上下の調節はハンドル上下レバーを握り、作業姿勢に合わせてワンタッチで切り変えてください。

2) 回動について (17図)

左右の回動は、ハンドル開動レバーを握り、ワンタッチで切り変えてください。

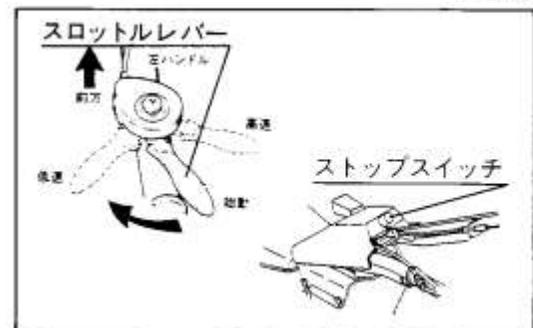


(8) エンジン停止 (18図)

1) エンジン停止の際は、スロットルレバーを「低速」に戻し、ハンドルカバーにあるストップスイッチを押してください。

2) 燃料コックを「閉」にする (19図)

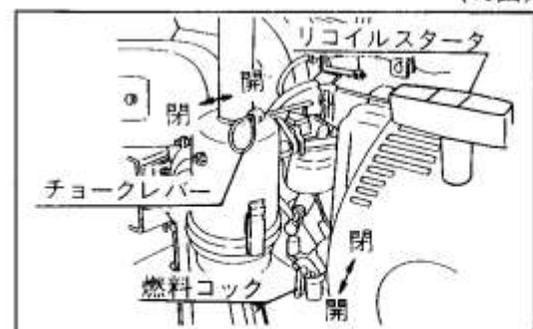
作業機の取付、運搬等の際は必ず燃料ストレーナーを「閉」にしてください。機体を倒しすぎますとガソリンがエンジン内でオーバーフローする事があります。又、エアークリーナーエレメントにオーバーフローし、エンジンの始動不良をおこします。



(9) スタンド (17図)・1輪で使用する場合

1) スタンドを立てる場合は、スタンドレバーを前に倒すとスタンドが降り地面につきます。次にハンドルを持って手前に引くとスタンドが立ちます。この時車輪が少し浮く様に尾ソリの高さを調節してください。

2) スタンドをたたむ場合は、ハンドルを持ってそのまま前に押します。次にスタンドレバーを止まるまで手前に引きます。



9. 作業機の脱着

- 1) ロータリーは、キングピンの差し込みとクランプレバーにより取り付けられています。締め付けが弱い場合はナットを締め付けてください。

(20図)

- 2) チェンケースの脱着はエンジンを止めた状態で行ってください。
チェンケースの軸間(238mm)に合う様にするには、シャーシーフレームとミッションケースを共締めしているM12、M8 ナットを少しゆるめて行ってください。

調整後は、ゆるめたネジを確実に締め付けてください。

(20図)

- 3) ミッションケースには年1回、良質のグリースを補給してください。

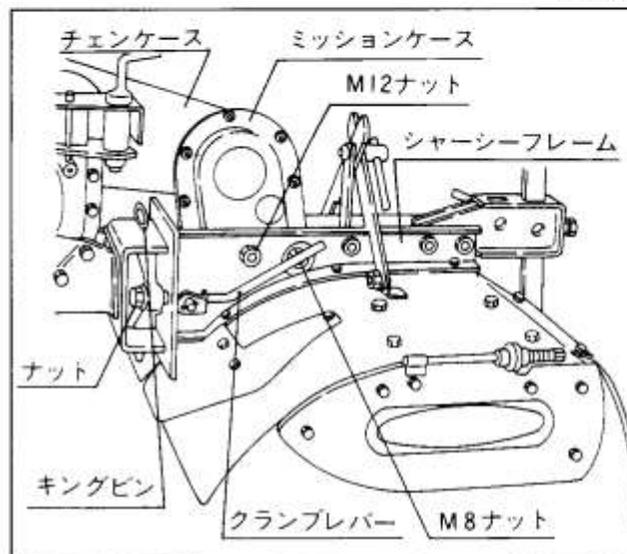
- 4) 耕耘軸部の取付

耕耘軸部は、伝達効率の良い六角軸ですから作業機の脱着が楽です。

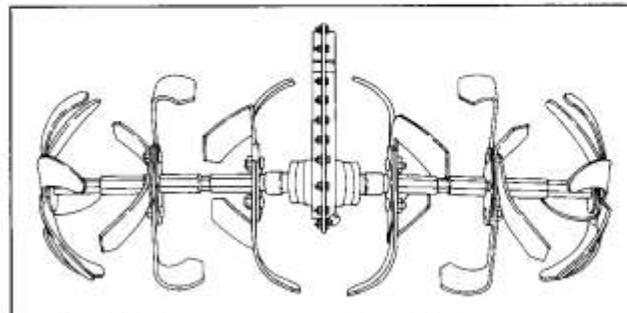
六角寸法は対辺18mmとなっています。

ナタツメロータの取り付けは(21図)の様組付けてください。

(20図)



(21図)



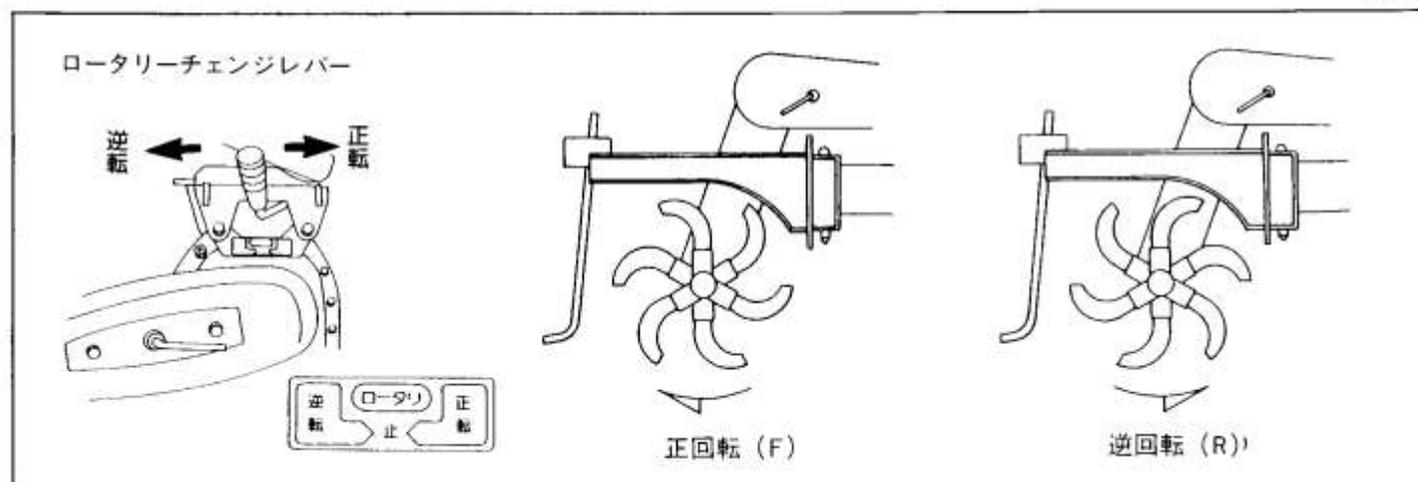
5) 作業内容に応じて、チェーンケースの組換えをしてください。

P.T.O軸回転 400 r. p.m

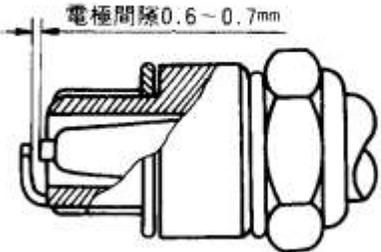
	本機スプロケット	ロータリースプロケット	耕耘軸回転
低速	12 枚	17 枚	200 r. p. m
高速	17 枚	12 枚	400 r. p. m

6) 正転、逆転は本機のロータリチェンジレバーにより操作してください。(22図)

(22図)



10. 不具合と対策方法

不 具 合 内 容	対 策 方 法
<p>エンジンの始動不良</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 スロットルレバーの確認 スロットルレバーを「S」の位置にしてください。 2 燃料の確認 燃料が充分入っているかどうか確認して下さい。少い場合はタンクの口元迄給油して下さい。又、燃料ストレーナーのコックを「開」にしてください。 3 チョークレバーの確認 チョークレバーの操作は、寒い時は「閉」にしてください。始動後は徐々に「開」にしてください。暖ったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを「開」又は「半開」にしてください。 4 点火プラグの確認 チョークをしすぎたり長時間機体を前方に倒したままにしておくとプラグが湿りがちとなりますのでプラグを外して掃除をしてください。尚プラグの隙間は0.6~0.7mm (1\ガキ2枚分) が標準です。 <div data-bbox="1451 1043 1832 1295" style="text-align: right;">  <p>電極間隙0.6~0.7mm</p> </div>

不 具 合 内 容	対 策 方 法
<p>エンジンの馬力不足</p>	<p>1 エアークリーナーの点検 マン式オイルパス ①OIL LEVELの線迄、オイルが入っているか点検します。 ②次に油がよごれていたら新品オイルと交換し、炉網を軽油で洗浄します。</p> <p>2 リコイルスタータの目詰り点検 リコイルスタータの吸気口にワラや草等がつまりますとオーバーヒート気味になりますので掃除をしてください。</p> <p>3 エンジンオイルの点検 エンジンオイルは規定量入っていますが、エンジンオイルが汚れていると各部の摩耗を早めますし、又傾斜地等で使用の際はオイルが少ないと焼付をおこしますのでオイルの補給をしてください。エンジンを水平にしてオイル注油口のキャップをねじこまず差し込んで点検してください。</p> <p>4 車軸部の点検 草やワラ等の多い所で作業の際は各種ローターに巻きつき余分な馬力を必要としたり、又、作業性能も悪くなりますので時々掃除をしてください。エンジンは必ず停止して点検してください。</p>

11. 手入と保存方法

長時間運転しない時や長期間保存する場合は次の手入を行なってください。

1 本機の清掃、洗浄、注油

泥、ゴミ、塵りなどは水洗し、水洗後はよく水分をふきとり各回転部、摺動部にたっぷり油をさしてください。

2 オイル交換

オイル交換は作業が終って潤滑油の暖いうちに行ないますと大変楽ですし、又きれいに排油する事が出来ます。

3 シリンダー内の錆付防止

点火プラグを外し、プラグの穴よりエンジンオイルを約10cc位入れ、リコイルスタータを2～3回引いてプラグを取り付けてください。圧縮のある所で止めてください。

4 燃料タンク、キャブレター、燃料コック内のガソリンは完全に抜き取ってください。

5 クラッチレバーを「切」にしてください。クラッチレバーを「切」にしてベルトをたるませておいてください。クラッチを「入」にしておきますとベルトに無理な力が働きベルトの形状が変形する事があります。



12. 付属品一覧表

付 属 工 具			付 属 部 品	
名 称		個数	名 称	個数
ボックススパナ	13×17	1	シヤジク	1
ボックスレンチ	17	1	ヒラアタマピン	2
ボックススパナ	21	1	Rピン	2
⊕ドライバー		1	本機取扱説明書	1
コオグブクロ		1	エンジン取扱説明書	1

マトウ農機株式会社

本社	363-0017	埼玉県桶川市西2-9-37	☎048-771-1181
秋田工場	018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家の下2-3	☎0184-43-4160
秋田営業所	018-0134	秋田県にかほ市象潟町西中野沢字家の下2-3	☎0184-43-4121
山形営業所	994-0012	山形県天童市久野本3920-1	☎0236-54-0681
福島営業所	960-0102	福島県福島市鎌田字一里塚1-1	☎024-553-0885
新潟営業所	940-1104	新潟県長岡市撰田屋町字崩2617	☎0258-23-1329
長野営業所	388-8006	長野県長野市篠ノ井御幣川496-6	☎026-293-4888
群馬営業所	379-2105	群馬県前橋市東大室町183	☎027-268-3119
栃木営業所	322-0026	栃木県鹿沼市茂呂645-4	☎0289-76-0187
茨城営業所	310-0853	茨城県水戸市平須町新山1828	☎029-241-3751
中部営業所	501-6233	岐阜県羽島市竹鼻町飯柄370-1	☎058-393-0041